

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市民プラザ	評価対象年度	平成30年度
事業者名	市民プラザNTJ共同事業体 代表者 野村不動産パートナーズ株式会社 代表取締役 福田明弘 東京都新宿区西新宿1丁目26番2号 構成員 株式会社ティップネス 代表取締役 花房秀治 東京都港区三田3丁目4番10号 構成員 株式会社JTBコミュニケーションデザイン 代表取締役社長 細野顕宏 東京都港区芝3丁目23番1号	評価者	市民文化局市民生活部企画課長
指定期間	平成27年4月1日～平成32年3月31日	所管課	市民文化局市民生活部企画課

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組・事項

利用実績	<p>【総利用人数】 423,031人 [H29: 458,873人 H28: 479,995人] <内訳> ・文化施設 114,728人 [H29: 131,081人 H28: 135,524人] (ふるさと劇場、屋内広場、会議室、練習室、茶室、ギャラリー) ・体育施設 180,931人 [H29: 185,931人 H28: 187,743人] (プール、体育館、トレーニング室) ・ふれあい施設 114,717人 [H29: 130,495人 H28: 142,792人] (お風呂、大広間、囲碁将棋室、プレイルーム) ・その他施設 12,653人 [H29: 11,366人 H28: 13,936人] (ふるさとコーナー、特別和室)</p> <p>【健康増進事業】 年間教室 5教室 9,518人 [H29: 5教室 9,487人、H28: 5教室 9,477人] 短期教室 18教室 4,872人 [H29: 11教室4,261人 H28: 9教室 3,771人]</p> <p>【文化・教養事業】 年間講座 24講座29教室 4,941人 [H29: 24講座29教室4,949人 H28: 24講座29教室 5,060人] 短期講座 9講座41教室 402人 [H29: 9講座42教室 554人、H28: 10講座33教室 440人]</p> <p>【市民相互の交流事業等】 主催・共催・自主事業45事業27,791人 [H29: 44事業 28,681人、H28: 44事業 29,797人]</p> <p>【貸館施設利用率等】 総利用率 35.8% [H29: 35.7% H28: 38.3%] <主要施設> ・ふるさと劇場 34.1% [H29: 35.5% H28: 35.5%] ・会議室 30.8% [H29: 29.3% H28: 29.9%] ・練習室 57.5% [H29: 60.8% H28: 66.7%] ・茶室 30.4% [H29: 29.5% H28: 33.2%] ・ギャラリー 79.3% [H29: 81.8% H28: 80.1%]</p>
収支実績	<p>(1) 収入 439,499,066円 [H29: 464,231,796円] 内訳: 指定管理料 274,848,972円 [H29: 274,848,972円] 利用料金 64,017,025円 [H29: 68,733,530円] 健康増進事業 64,416,830円 [H29: 63,841,120円] 文化・教養事業 26,510,060円 [H29: 27,819,450円] 市民交流事業 2,721,000円 [H29: 2,906,150円] レストラン事業 0円 [H29: 19,038,100円] ※H30年度より事業委託 その他 6,985,179円 [H29: 7,044,474円]</p> <p>(2) 支出 408,695,034円 [H29: 432,709,478円] 内訳: 人件費 126,423,509円 [H29: 131,591,441円] 管理費 127,049,254円 [H29: 124,638,554円] 健康増進事業 16,506,690円 [H29: 18,291,523円] 文化・教養事業 13,692,951円 [H29: 14,485,648円] 市民交流事業 2,472,082円 [H29: 2,751,530円] レストラン事業 8,558,347円 [H29: 30,467,474円] ※H30年度より事業委託 光熱水費 102,645,051円 [H29: 100,700,824円] 修繕費 11,347,150円 [H29: 9,782,484円]</p> <p>(3) 収支差額 30,804,032円 [H29: 31,522,318円]</p>

<p>サービス向上の取組</p>	<p>【施設の管理運営事業】 ●利用者からの要望を受けて、プール更衣室へのドライヤー常設、大広間の畳を新調した。 ●プール更衣室が滑りやすい状況となっていたため、床面を張替えてプールのスノコを撤去し、代わりに防滑シートの運用に変更した。 ●プールロッカーこじ開け対策として貴重品BOXの利用を推奨しているが、プール利用者がこれまで以上に利用しやすいよう、館内の他場所に設置されていた利便性の高いキーレスタイプの貴重品BOXに差替え、設置場所も更に見えやすい場所に移設した。 ○駐車場について、危険箇所への事故防止対策をこれまでに適宜行ってきた結果、今年度の自損事故件数はゼロとなった。 ○不法投棄について、昨年度に衝立設置やセンサーライトを設置し、今年度も注意深く見回りの結果、ごみ置き場裏に不法投棄されていたゴミをゼロに抑制することができた。 ●総合フロント業務基本マニュアルを更新し、更に業務フローを円滑にすることができるようになった。 ○前年度から始めた共同事業体3社が協力して実施している清掃活動「クリーンデー」を今年度も継続して実施した。</p> <p>【健康増進事業】 ●大人の3ヶ月教室を前年度の16本から26本に拡充して曜日や時間帯の選択肢を広げた結果、前年度から受講者数を600人以上増加させた。 ●ゆるやかな空手の型の動きを取り入れた「ゆるから体操」や、学校の授業につながる体育運動と運動の基礎能力を伸ばすコーディネーション運動の2つに視点をあわせ科学的にアプローチする「体育のミカタ」など、利用者のニーズを取り入れた新規教室を開設した。 ●キッズダンススクールは、近隣小学校の主催イベントや市民プラザ趣味の教室発表会等でPRした結果、前年度から登録者数を70名増加させた。 ●無料促進イベントとして、夏休み期間中にプールを利用した子どもが天気シールを台帳に貼り、10日分集めたら景品をプレゼントするシールラリーを実施した。</p> <p>【文化・教養事業】 ●開館40周年特別企画の第一弾として、年間講座講師による体験コーナーと受講生の作品販売するイベントを実施し、1,300人の来場者があった。 ●短期講座「立体制作からデッサン」「着物モダンリメイク1日講座」など、多様な教室を新規に開催した。</p> <p>【市民相互の交流事業】 ●これまでの市民相互の交流事業活動実績が評価され、市主催の一大イベント「かわさきジャズ」の地域連携イベントとして「かわさきジャズ～公募スペシャルライブ～」が行われた。 ○昨年度から実施して好評だった、通常は入ることができない舞台裏、楽屋、稽古風景を劇団スタッフの案内により見ることができるファミリーミュージカルの「バックステージツアー」と「ワークショップ」を継続した結果、本公演の来場者は昨年度を上回り相乗効果が見られた。</p> <p>【レストラン事業】 ●今年度よりレストランの運営を専門業者へ業務委託し、これまで以上に高い専門性や厳格な食品安全性を実現した。また、貸館利用者への弁当提供やイベント時の臨時飲食対応など、臨機応変な対応を実践した。</p>
------------------	---

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	6	4	4.8
		利用者満足度は高い水準となっているか			
		調査結果の分析を行い、高い満足度を獲得するための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	6	3	3.6
		当初の事業目的を達成することができたか			
(評価の理由)					
<p>【利用者満足度】 ●窓口や御意見箱、ホームページでの問い合わせのほか、各種講座の受講、貸館利用、各種行事参加時におけるアンケートの実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などの把握に努めた。そして、利用者の意見をもとに、プール更衣室へのドライヤーの常設や、大広間の畳の新調などを行い、快適な利用となるよう更なる満足度向上に努めた。</p> <p>○アンケートでは、文化・教養事業(年間・短期講座)で「非常に満足」「満足」の合計が94.4%(H29:94.3%)、体育事業(大人の3か月教室)で「非常に満足」「まあまあ満足」の合計が97.1%(H29:97.4%)、市民相互の交流行事等事業で「楽しかった」「(大変)良かった」と回答した割合は92.5%(H29:92.8%)と、いずれも高い満足率を維持している。</p> <p>また、施設利用について「非常に満足」「まあ満足」の合計が93.5%(H29:93.9%)、スタッフの対応について「非常に満足」「まあまあ満足」の合計が97.2%(H29:95.6%)と、こちらについても継続して高い水準となっている。</p> <p>レストランにおいては、今年度より専門業者に委託した結果、「非常に満足」「まあまあ満足」の合計が昨年度の61.1%から62.6%と微増となったが、依然として改善の余地があることから、1年目となった今年度の経験や情報を活かし、委託業者と十分な協議を重ねたうえで、更なる利用者ニーズを捉え満足度を向上させるための継続的に取り組むことが必要である。</p> <p>【事業成果】 ○事業計画に基づき、文化・教養講座、健康増進講座、各種イベント等を実施した結果、年間の総利用人数は423,031人となった(H29:458,873人)。昨年度と比較すると、利用頻度が高い高齢者の更なる高齢化や猛暑による外出機会の減少、さらには新規利用者獲得の伸び悩み等の要因による利用者減が考えられる。この他、ふるさと劇場の3ヶ月休館による利用者減も影響があった。</p>					

収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	4	4.0	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	5	3	3.0	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか	4	3	2.4	
	(評価の理由)					
	<p>【効率的・効果的な支出】</p> <p>●レストラン事業について、専門業者と委託契約することにより、これまで以上に高い専門性や厳格な食品安全性を実現しつつ、昨年度までの直営と比較し280万円以上の赤字を削減することができた。</p> <p>○積極的な節電・節水等により光熱水費の全てにおいて使用量を削減させることができた。</p> <p>●料金単価が上昇傾向にあるため、電気・ガス料金について電力会社及びガス会社の見直し及び料金単価契約見直しの交渉を行い、電気は12月・ガスは2019年4月から切り替えることとなった。</p> <p>○幅広い年齢層に応じた様々な無料促進イベントを実施し、利用者の健康増進に資する教室への興味拡充につながる効果的な支出を行った。また、当無料イベントを社員スタッフが対応することで効率的な事業運営を行い、事業費削減にもつなげた。</p>					
	<p>【収入の確保】</p> <p>○健康増進事業について、昨年度に比べて約50万円の増収ではあったものの、一方では、収入決算額が予算に対して218万円の未達だったにもかかわらず、支出決算額は予算に対して651万円少なかった。ここには、さらなる努力の余地があったと捉えることができる。</p> <p>○年間事業計画予算(委託契約となったレストラン事業は除く)と比較し、収入実績は約110万円の増収となった。</p> <p>○利用料金収入について、体育室利用区分の4区分制やトレーニング室の3時間制の定着、また無料の運動初心者向けの「はじめてトレーニング」が好評だったことにより、安定的な利用・収入につながる定期券収入が昨年度に比べて約20万円の増収となった。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切な事業の実施 (施設の管理運営事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (健康増進事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (文化・教養事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	4	6.4
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	適切な事業の実施 (市民相互の交流行事等事業)	実施すべき事業内容が仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	8	3	4.8
		実施事業の利用促進への具体的な取組が為されているか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際の事業実施内容に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	4	4.8	
	意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)				
	利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				

(評価の理由)

【施設の管理運営事業】

●プール更衣室が滑りやすい状況となっていたため、床面を張替えてプールスノコを撤去し、代わりに防滑シートの運用に変更した。
●プールロッカーこじ開け対策として貴重品BOXの利用を推奨しているが、プール利用者がこれまで以上に利用しやすいよう、館内の他場所に設置されていた利便性の高いキーレスタイプの貴重品BOXに差替え、設置場所も更に見えやすい場所に移設した。
○駐車場について、危険箇所への事故防止対策をこれまでに適宜行ってきた結果、今年度の自損事故件数はゼロとなった。
○不法投棄について、昨年度に衝立設置やセンサーライトを設置し、今年度も注意深く見回した結果、ごみ置き場裏に不法投棄されていたゴミをゼロに抑制することができた。
●総合フロント業務基本マニュアルを更新し、更に業務フローを円滑にすることができるようになった。
○ホームページでは、各種講座・イベントの開催情報等を掲載しているが、継続的な広報活動により、閲覧数246,090回(H29:241,458回)、ユーザー数182,034人(H29:179,561人)、Facebookの「いいね！」件数522件(H29:521件)となっており、閲覧数、ユーザーとFacebookの「いいね！」についてはいずれも増加している。
○イベント、講座、貸館等の情報提供のため、地元町内会・自治会の協力を得て、高津区を中心に中原区・宮前区も含めて現在50町内会(約4,500部、約49,400世帯)を対象に回覧を実施している。

【健康増進事業】

●年間教室は、学校の授業につながる体育運動と運動の基礎能力を伸ばすコーディネーション運動の2つに視点をあわせ科学的にアプローチする「体育のミカタ」を新規導入し、9,518人(H29:9,487人)とほぼ昨年並みの参加者数となり、大人の3ヶ月教室については、ゆるやかな空手の型の動きを取り入れた「ゆるから体操」の新規導入や、教室数を前年度の16本から26本に拡充して曜日や時間帯の選択肢を広げた結果、年間延べ受講者数は4,872人(H29:4,261人)となり昨年度から14%超増となり、2年連続で10%以上の伸び率となった。また、施設全体では利用者減という状況の中、事業全体では3年続けて過去最高の収入をあげることができた。

【文化・教養事業】

●開館40周年特別企画の第一弾として、年間講座講師による体験コーナーと受講生の作品販売するイベントを実施し、1,300人の来場者があった。また、このイベントの実施により、施設全体に記念の年であるという雰囲気が高まる効果が見られた。
●年間の受講者数は5,343人(H29:5,503人)と微減ではあったが、「立体制作からデッサン」「着物モダンリメイク1日講座」で新たな講座を企画するなど、利用者のニーズを読み取り事業を展開した。
●会議室の利用件数は、近隣住民への周知の効果が表れた結果、約200件増加した。

【市民相互の交流行事等事業】

●これまでの市民相互の交流事業活動実績が評価され、市主催の一大イベント「かわさきジャズ」の地域連携イベントとして「かわさきジャズ～公募スペシャルライブ～」が行われた。
●プラザ・ウィンドウコンサート、ぷらり寄席など新規事業を含む計45事業を実施し、27,791人(H29:28,681人)の参加があった。
○「新作第一町内会納涼盆踊り大会」、「橘ふるさと祭り」等の地域とのつながりが深いイベントを主催者と信頼関係を深めながら実施した。
○人形劇に関する国内有数のイベントとして認知されてきた「人形劇まつり」については、実行委員会方式により多くの関係者との協力を深め、酷暑の中ではあったが6,225人の参加があった(H29:7,418人)。なお、来年度からは来場者の安全を考慮し、7月から9月開催にすることとなった。
○指定管理者構成員の本社提案事業内容が、市民プラザの利用層のニーズに合わない判断して実施を見送ったため、年間事業予算(収入)に対して81.0%に留まった。

【利用者の意見・要望への対応】

●今年度は、利用者の要望をもとに、プール更衣室へのドライヤー常設、大広間の畳の新調を行った。
○意見要望に対しては、速やかに館内スタッフ同士で情報共有を行っている。改善できるものに対しては、速やかに検討、改善し、利用者の満足度向上を図っている。また、主な利用者意見への対応については、定期的に館内の掲示板に掲出している。

分類	着眼点	配点	評価段階	評価点	
組織管理体制	適性な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	4	3	2.4
	連絡・連携体制	定期または随時の会議等によって所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	4	3	2.4
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	6	4	4.8
		緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか			
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	4	3	2.4	
(評価の理由)					
<p>【担当者のスキルアップ】 ●総合フロント業務基本マニュアルを更新し、更に業務フローを円滑にすることができるようになった。 ○現場におけるOJTおよび各構成企業の本社主催研修により人材育成を行った。これにより、スタッフの個々の経験と知識を活かしながら幅広い業務をこなすマルチタスク化が可能となった。</p> <p>【安全・安心への取組】 ○消防訓練を2回(9月・3月)実施した。9月は総合防災訓練と合わせて試験用のAEDとマネキン人形を用意し、職員全体のAED取扱い訓練を実施した。 ○プールエリアでは、監視体制を2ポジションとしているが、夏季の繁忙期には監視員を増員して利用人数に適宜対応できる体制を取っている。 ○プールエリアの安全確保・事故防止のため、監視員全員はトランシーバー、メガホン、笛を携帯し、直ちに周知できる体制を整備している。 ○プール監視員全員に、CPR(心肺蘇生法)・AED応急処置の訓練を年2回実施した。</p> <p>【コンプライアンス】 ○ITセキュリティ、接客マナーサービスセクション研修、マネージャ研修を実施し、個人情報保護を含むコンプライアンス、CSRに関する認識向上を図った。</p>					

適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	4	3	2.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか。			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	4	3	2.4
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	駐車場管理業務	駐車場を安全・快適・適正に管理・運用できているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
<p>(評価の理由)</p> <p>【施設・設備の保守管理】 ○築40年を経過して設備の老朽化が進行しており、男女浴室給湯配管改修工事やプール循環配管漏水緊急改修など、今年度も多くの工事や緊急対応の事案があったが、その際には利用状況を把握した上で改修作業のタイミングなどを調整し、影響を最小限に抑えるよう対応した。</p> <p>【清掃業務】 ●プール裏のレンガが黒ずんで汚れており、雨でレンガが濡れると滑りやすく転倒する恐れがあったため、予防保全としてレンガの清掃を実施した。また、庭園の手すりが錆びて、一部は穴が開いている状況であったため、きれいに錆止め塗装を行った。 ○昨年度開始した、月に一度、共同事業体3者が集まって敷地内のゴミ拾い活動「クリーンデー」を継続した。</p> <p>【駐車場管理業務】 ○昨年度に実施した、危険個所のポールへのトラテープ巻きつけ、駐車場後方のレンガ上部へのクッションカバー取り付けなどの効果もあり、今年度は車両の自損事故がゼロとなった。</p> <p>【外構・植栽管理】 ○敷地外への落葉予防のための剪定、枝折れの可能性が高い高木の剪定を適宜実施した。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	69.4	評価ランク	C
-------	------	-------	---

注) 評価点：100点満点。評価ランク：5段階評価

A：80点以上 B：70点以上80点未満 C：60点以上70点未満 D：50点以上60点未満 E：50点未満

A：特に優れている B：優れている C：適正である D：改善が必要である E：問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市民プラザは、昭和54年の開設以来33年間にわたり、財団法人川崎市指定都市記念事業公社が所有してきたものを、公社解散に伴い市が寄贈を受け、平成24年度から指定管理者制度を導入し7年目となる。

この7年間全体としては、指定管理者制度を導入する直前の年度の総利用者数375,393人と比較すると今年度は423,031人で約4.7万人の利用者増となっており、制度導入の効果はあると評価することができる。

その一方で、今年度の総利用者数423,031人は、昨年度と比較すると、利用者の更なる高齢化や猛暑による外出機会の減少や新規利用者獲得の伸び悩み、この他、ふるさと劇場の3ヶ月休館などの影響もあり、約3.5万人の利用者減となっている。今後はより一層、予算収入の目標値を達成するためにも、利用者の獲得に向けた様々な対応を期待したい。

個々の主な取組を見ていくと、まず、健康増進事業の「大人の3ヶ月教室」については、利用者数が前年比14%超増となっており、教室数を拡充して曜日や時間帯の選択肢を増やしたり、プログラム内容を実際に体験できるレッスンの実施など、総利用者数が減少している中で、利用者目線に立った取組や新たなニーズの獲得への取組が確実に結果として表れていると考えられる。

次に、管理運営については、施設自体は開館から約40年が経過しているにもかかわらず、これまで大規模な改修・改善が実施されてこなかったため、年間を通じて各所で不具合等が発生する状況にあるが、不具合が生じた際には、迅速な対応かつ適切なメンテナンス等を実施したことにより、利用者への影響を最小限にとどめたことは、円滑な施設運営に大きく貢献したと考えられる。

この他、転倒予防のためタイルの清掃やプール更衣室床面の張替えを行って、事故防止を未然に防ぐ対応をしたり、危機管理のための各種訓練を重ね、施設利用者の割合が高い高齢者に発症しやすい病気・怪我・事故に対して迅速に対応できる準備を行うなどにより、大きな事故が発生していないことも高く評価することができる。

本施設は市民相互の交流の場であり、かつ施設周辺の市民が多く利用する施設であることから、長年継続している地元の祭りや盆踊り大会に加えて、今年度新たに市と共催した「かわさきジャズ～公募スペシャルライブ～」のように、今後もより一層、地域に浸透し親しまれる存在となるような事業の推進・拡充が望まれる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

- ・事業計画における収入・支出予定額の精度を高め、引き続き事業計画に基づいた適切な事業の執行に努めること。
- ・利用者数増加に向けて、アンケート調査などを参考にしながら、利用者のニーズを的確に把握して、新規利用者の開拓・獲得につながるよう、利用しやすい環境づくり及び魅力のある教室・講座内容とするよう努め、併せて周知・PR活動も行うこと。
- ・専門業者に委託しているレストラン事業について、委託業者が利用者満足度調査等により把握した利用者ニーズを踏まえて満足度向上の対策を図るよう、適宜指導していくこと。
- ・地域にとって魅力ある施設となるために、引き続き地域との連携を図ること。
- ・設備機器のメンテナンスや備品管理などの施設の維持管理業務や館内の植栽管理業務について、継続して適切かつ安全に配慮して処理を行うこと。
- ・隣接する橋処理センター建設工事に関する暫定駐車場の管理運営について適切に対応すること。
- ・本施設の長寿命化に向けた工事について、関係局に対して適宜本施設に関する情報提供を行うこと。
- ・イベント開催時等における自家用車以外の交通手段による来館の促進策を検討すること。